

女性経営者が日本をもっと元気にする!

平成16年5月、急逝した父の後を継いで二代目社長に就任した諏訪さんが取引銀行へあいさつに行くと、支店長に「社長?大丈夫なのか?お前」と、真顔で心配された。お前呼ばわりした支店長に悪気があったわけではないだろう。ただ、社会経験が少なく、自社でもほとんど働いたことのない32歳の女性を前にして、頑固な職人集団を統率して経営が悪化している町工場を再建できるのかと不安にかられたのだろう。

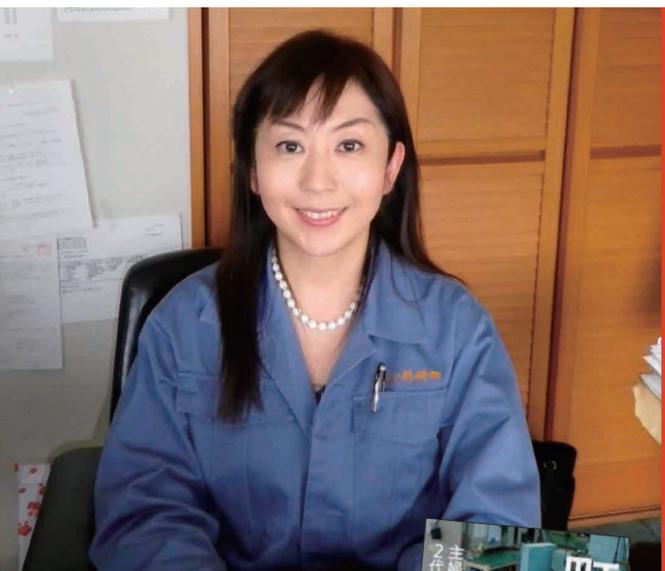
なにしろ当時の諏訪さんの経歴は、父の意向で大学の工学部を卒業して家業の取引先でもある大手企業で2年間働いた後、結婚退職して専業主婦になったというもの。

「お前に社長ができるのか?」

平成24年度、東京商工会議所の「勇気ある経営大賞」優秀賞、月刊誌「日経WOMAN」の「ウーマン・オブ・ザ・イヤ2013」大賞など数々の表彰を受けたダイヤ精機社長の諏訪貴子さん。彼女は父から引き継いだ会社を再建し、生産管理のIT化や若手育成の手法などを同業者に積極的に公開して、中小企業経営者だけでなく政府関係者からも注目されている「女性経営者」である。

新年総力特集

女性経営者が日本をもっと元気にする!



諏訪さんは新規取引先開拓に必要な知名度を上げるため各賞に挑戦。東京商工会議所主催の「勇気ある経営大賞」は社員の「取れるわけがない」という反対があったが「賞金はトイレの修繕に使う」という目標を設定したところ、社員に本気度が伝わった。結果は優秀賞。また「東京都中小企業ものづくり人材大賞」にも応募して奨励賞を受賞。昨年は社長就任10年を振り返った本も出版



[巻頭レポート]

女性ならではの目線で自分の経営哲学を貫くことが大事

父の死で経営危機に陥った町工場を引き継いだ32歳の2代目女性社長がわずか3年で立て直すことに成功した社内改革とは?

ダイヤ精機株式会社
代表取締役 諏訪 貴子さん

東京都大田区

その後、父に請われて二度ダイヤ精機に入社したものの、二度とも短期間で解雇されている。理由は、バブル崩壊後の不況により悪化した経営の改革案として、二回とも社員のリストラを提案したためだった。営業、製造、設計の3部門のうち、不採算の設計部門の3人と、社長秘書、運転手は不要と判断したのだが、父は社員の雇用を守りつつ業績を向上させる改革計画を期待していたのである。

16年3月、父から会社を手伝ってほしいと三度目の依頼があった。しかし正式に入社する前に、父が亡くなってしまふ。そのため、諏訪さんは当然、3人の幹部社員の中から新社長が選ばれるものと思っていた。ところが幹部たちは「全力で支えるから、社長を引き受けてほしい」と頼んできた。

ダイヤ精機は小さな町工場とはいえ、国内でも有数の超精密加工技術を持つ会社である。社員も27人(当時)抱えている。経営者として会社を再建し、事業を継続することができているのか。不安でいっぱいなの社長就任に追い打ちをかけたのが、冒頭に紹介したような銀行の見る目であった。就任後すぐに同規模の会社との合併話がもちかけられ、新会社にポストはないと退任を迫られるほど厳しいもの



「女性の活躍推進」が注目される中、すでに第一線で活躍している女性経営者がいる。今号は、彼女たちの経営理念とビジョン、企業のミッションに迫り、日本を元気にする女性経営者の目線の先にあるものを探った。